

Japan Geoscience Union Meeting 2011

(May 22-27 2011 at Makuhari, Chiba, Japan)

©2011. Japan Geoscience Union. All Rights Reserved.



SVC070-P19

会場:コンベンションホール

時間:5月23日 16:15-18:45

2011年霧島新燃岳噴火に伴う噴煙観測および降灰調査 Visual observation and ash fall sampling for the 2011 Eruptive activity of Shinmoe-dake, Kirishima volcano

鬼澤 真也^{1*}, 福井 敬一¹, 新堀 敏基¹, 安藤 忍¹, 木村 一洋¹, 弘瀬 冬樹¹, 吉田 康宏¹, 岩切 一宏¹, 吉田 知央¹, 山本 哲也², 吉川 澄夫¹

Shin'ya Onizawa^{1*}, Keiichi Fukui¹, Toshiki Shimbori¹, Shinobu Ando¹, Kazuhiro Kimura¹, Fuyuki Hirose¹, Yasuhiro Yoshida¹, Kazuhiro Iwakiri¹, Tomohisa Yoshida¹, Tetsuya Yamamoto², Sumio Yoshikawa¹

¹ 気象庁気象研究所, ² 気象庁地磁気観測所

¹Meteorological Research Institute, JMA, ²Kakioka Magnetic Observatory, JMA

霧島新燃岳では2008年以来、小規模な噴火を繰り返していた。2011年1月26日に始まった本格的なマグマ噴火を受けて、気象研究所では1月末から3月末にかけて映像による噴火・噴煙観測および降灰調査を行った。

映像観測： 噴火に伴う噴煙活動の把握や放熱率を明らかにするために、新燃岳火口近傍の映像取得を行った。新燃岳南方約8 kmに定点を設け、カメラインターバル撮影やビデオカメラによる可視映像とともに熱赤外映像を取得した。これらによって詳細な噴煙の噴出状況を捉えている。

降灰調査： 噴火による火山灰移送の理解と降灰予測の高度化に向けて、その検証データを取得する目的で降灰調査も並行して行った。映像データにより噴煙活動を把握しながら、個々の噴火に対応する降灰状況の把握を目指した。冬季の風下にあたる新燃岳南東方に定点を設け定期的に試料採取するとともに、一部の噴火に関しては、高時間分解能での降灰直接採取を行っている。

本発表では、これらの観測結果について報告する予定である。

キーワード: 霧島火山, 新燃岳, 噴煙観測, 降灰調査

Keywords: kirishima volcano, Shinmoe-dake, visual observation, ash fall sampling